



# サポちゃん通信

自然が好き

生きものが好き

No. 3



## 目次

・ああ地蔵峠	2-3
・蛾の美しさに魅せられて2「ライトトラップ」	4
・真夏の夜のライトトラップ	5
・超・長・チョウ	6
・白い綿毛をつけた虫	7
・フジバカマの魔力	8
・やったー！	9
・テントウムシ？	10
・エンマムシ	11
・スミナガシ	12
・鴻ノ峰林道や兄弟山林道沿いの夏の昆虫	13
・鴻ノ峰林道や兄弟山林道沿いの秋の昆虫	14
・サポちゃんのつぶやき	15
・コラム オオカマキリ・表紙あとがき 表紙・イラスト	16 原まゆみ

## ああ 地蔵峠

サポちゃんの夏は、今年も特別展の準備に大忙しです。

博物館では夏の特別展が毎年開かれます。

事の起こりは、おととしの「昆虫のふしぎな世界」展。このままでは間に合わないかもという危機感からサポちゃん決起、岡田プロジェクトリーダーの下、みんな総出で昆虫標本を展示できる状態に整えました。ナフタリンのにおいが充満している収蔵庫から標本を持ち出して並べ替えて…よく間に合ったものです(^\_^メ)

去年の「アリスと3D」展では、博物館史上初、3D工作グッズを6種類各1,000個ずつ作ることとなり、夏の活動は工作一色となりました。基本のアイデアをみんなでブラッシュアップして、この年も岡田さんによる進行表と進捗管理(-\_-)/~~~~ピシー!ピシー!

学園祭の準備のように、みんな集まっては手と口も動かし、にぎやかに作り上げていくのは大変だけど楽しい夏の思い出になりました。



特別展 工作グッズ製作風景

そして、今年。「宇宙兄弟展 2018×やまぐちと宇宙」展では、さすがに宇宙で工作はないだろうとのんびりしていたところ、小さな子供を退屈させない何かが必要！となり、結局今年も始まりました。

お金をかけずに、簡単で、でも宇宙とか空間とか感じられてって…なかなかハードルが高い。

漁さんと理工のメンバーで試作を重ね、今年はイラスト付きの手順マニュアルを作ってくれた岡田さんに感謝しつつ、やっていますよ、今年も！

パラシュートの重りは2グラム、身近なもので言えば色紙1枚とほぼ同じ…ならば風船を折り紙で作ってくっつけましょう、と折り紙マスター山田さん。パラシュートの傘は几帳面な吉本さんの独壇場、夏の星座・白鳥座のイラストといえば原さんで決まりね。

部品がそろったら1組ずつセットにして袋詰めしていきましょう…延々と単純作業が続くと、富岡製糸工場の女工さんになった気分で、気持ちには野山に飛んでいきます。「ああ、野麦峠」ならぬ「ああ、地蔵峠」

でも、手に取った子供たちの笑顔を思い浮かべながら頑張りました、楽しんでもらえますように！（間田敬子）

## 蛾の美しさに魅せられて2「ライトトラップ」

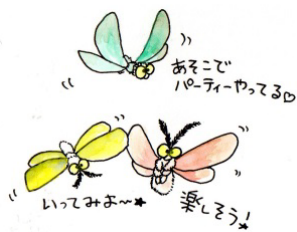
昨年から少し本気になって蛾の採集を始めた。採集の度に違う種類に出会い、個性的な模様、翅形など見ていて飽きない魅力に気づいてしまったのだ。さらに多くの種類に出会いたいとの思いから、今年5月に初めて兄弟山公園で「ライトトラップ」を実施。その時の様子はこんな感じだった。ネット情報を頼りに以下の物を準備。

- 1, 光源 (HID ハンディライト (超強力な光源) をメインに複数持参。)
- 2, スクリーン (2×3M 白シートとシートを張るための道具)
- 3, 採集用具 (プラスチック容器約 50 ケース、ネット)
- 4, 暇つぶし (コーヒー、カップ麺、キャンプ用ガスコンロ)

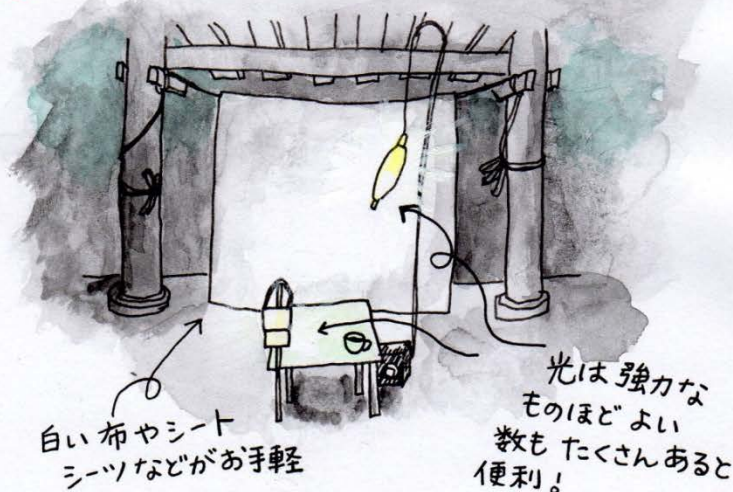
明るいうちから一人で兄弟山公園に行き、準備に取りかかる。公園のベンチ上の屋根を貸していただき、スクリーンをセット。光源もセットして、暗くなるまで待った。

まだ時間があるので湯を沸かし、カップ麺を食べ、コーヒーを入れ、スマホで音楽を聴きながらのんびりしていると、ライト回りや、シートにぼつぼつと蛾が飛来。周りが暗くなるほど、いろんな種類の蛾が増え、約1時間半で採集用に用意したプラケースがいっぱいになってしまった。同定は展翅後にゆっくりするとして、ざっと30種類はいそいだ。そのほかにも甲虫やトンボなどが光にやってくる。近場で一度にこんな多くの昆虫に会えるとは、も一びっくり、虫好きにはたまらないおもしろさである。

その後も月に一度、同じ場所でライトトラップを行っている。そのたびに違う種類に出会うのも楽しみの一つだ。だれか一緒にライトトラップしませんか〜。(吉本進)



# ま なつ よる 真夏の夜の ライトトラップ



夏になると道路の街灯に虫が集まって来るのを見たことがありますか？ これを自分でセットして虫を待つのがライトトラップです。時間や場所で色々な虫がやってきます。ルールやマナーを守って楽しんでください。

ちなみに、最近の街灯はLEDなので虫が来ないよ〜

# 超・長・チョウ



1月の糸米川砂防園



雪の日の調査



ムラサキツバメ 開張 30-40 mm テングチョウ 開張 40-50 mm

1月の調査日。

何かいるかなあ～

いつもの道を歩いていると、道に何やら白いものが落ちていた。

草にからまったようなそのものは、拾おうとすると「ん？」

触覚？脚？あれ？チョウ？引っ張ってみても取れず、もう死んでくっついているのかも、と植物ごと採集。

後で見るとちゃんと生きていてウラギンシジミの成虫越冬の個体だった。

アオキの葉の上にクモの巣やら枯葉やら「ん？」

枯葉と思ったものが触覚？翅をたたんで葉の上にピッタリとチョウが…目が慣れたのかもう1頭近くに見つけ、ムラサキツバメの成虫越冬だった。

3月の調査日。鼻の長いチョウが…

早春のチョウ、テングチョウ。ワーイ！（本間喜美恵）

## 白い綿毛をつけた虫



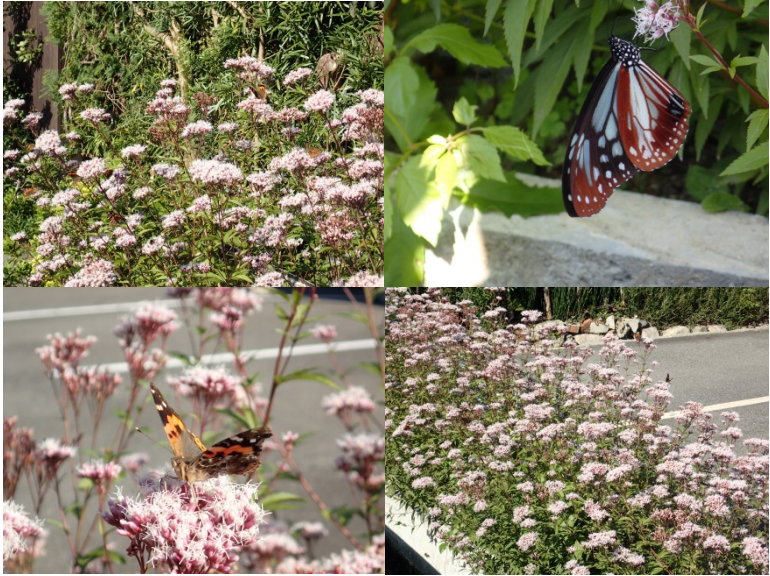
スケバハゴロモの幼虫と成虫

6月下旬の昆虫採集。いました、いました。おしりに白い綿毛のようなものをつけた、5 mmくらいの鮮やかな緑色の虫。葉の上でモソモソ、茎を伝ってモソモソ。仲間と一緒にいると安心するのでしょうか、1匹見つけると周囲に何匹もいることがよくあります。ぱっと見はカビのように見えますが、しゃがんでじっと見ると白い綿毛が動くのがわかります。ツンツンつくと綿毛を広げて見事なジャンプ。なるほど、タンポポの綿毛のような働きをしているのでしょうか。

この虫は、セミのような顔をしたスケバハゴロモという虫の幼虫です。透明で黒褐色の縁取りのある丸い翅は、光があたるとキラキラ光ります。白く見えた幼虫の綿毛も、写真で見ると1本1本が、キラキラ光って見えます。まるでグラスファイバーのようです。このキラキラで天敵から身を守っているとも言われています。

白い綿毛に見えたおしりは、敵をびっくりさせるようなキラキラ花火のおしりなのかもしれませんね。(上田貴子)

## フジバカマの魔力



フジバカマの花壇にきたチョウ類

朝夕が冷え込み秋も深まった 10 月下旬、その日は快晴で気温も久しぶりに 20℃超えました。山口県庁近くにアサギマダラが来ていると聞いて見学に行ってきました。フジバカマの花が駐車場の脇に咲いている場所で多くのチョウが舞っていました。確認できたチョウは、アサギマダラはじめアカタテハ、ヒメアカタテハ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ベニシジミ、イチモンジセセリの 7 種。いずれも秋を代表するチョウ達です。そんな中、アサギマダラは優雅に舞い、熱心に花の蜜を吸っていました。これから南へ向かう長旅に備えて栄養補給をしているのでしょうか。また他のチョウたちはその旅立ちを見送るかのようでした。このような市街地でわずか 10m くらいの植え込みでこのような光景に出会えたことに感激しました。これもフジバカマの魔力でしょうか。この場所はどこかって？それは内緒にしておきます。(村上敬司)



## やったー！



花壇を手入れする



産卵に来たジャコウアゲハ

4月23日、お菊さんからメスのジャコウアゲハが羽化しました。心配しながら待っていたので先生から連絡をもらった時はとても嬉しかったです。そして博物館の裏手を開墾(?)して作った花壇のウマノズクサの所に放してもらおうようお願いしました。

この花壇は「いろいろな昆虫が遊びに来たり産卵したら楽しいだろうね」というところからスタートしました。フキノトウが顔を覗かせる頃に作業を始めました。まずは土作りからとスコップや鍬でクズやカヤの太い根を掘り起こし大小の石もどけました。次に博物館裏山の腐葉土を集めて運び、家で薪ストーブを使っている人が提供した大量の木灰と混ぜてうち込み、何とか花壇っぽくなりました。そこへ苗のウマノズクサを定植し、破れて廃棄されたノリ網を2階ベランダから吊り下げ、つるが伸びるようにもしました。昨秋みんなで眺めたフジバカマの株を沢山分けていただいたり、各自庭にあるカンアオイ、コスモス、パンジー、オニユリなど何種類もの花苗や球根を持ち寄り、みんなで作った0円花壇が完成。

6月29日、活動前いつものように全員で花壇の草取りをしている時、ついに願いが叶いました。なんと、みんなの目の前でウマノズクサに産卵したのです。きっとあのお菊さん2世に間違いない！ と私は信じています。(山田恵美子)

## テントウムシ？



キボシマルウンカ 体長約5mm ナナホシテントウ 体長5-8mm

兄弟山林道沿いの草むらで テントウムシを見つけました。オレンジ色の地に黒い斑点が幾つか付いています。「何テントウかなあ？」と思いながら、薬瓶へ入れました。

昆虫採集の日は、午前中野外で昆虫採集。お昼を挟んで午後からは博物館で図鑑を参考にしながら名前を調べたのち標本にします。時間内に終わらせるため急ピッチで作業します。図鑑を見ても周りに尋ねても虫の名前がわからない時は、時間切れでそのまま未同定標本になります。

さてさて捕まえたテントウムシの名前を調べましょう。大きさは5mm程、翅の色はオレンジ色、斑紋は8星いや10星？目に特徴がある。手持ちの図鑑を何度見返してもピタッとくるものが無い。「うーん、何テントウかなあ??」ブツブツ言う私に「こんな本あるよー」とサポーター仲間がうすい冊子を渡してくれました。

“大阪のテントウムシ” 大阪市立自然史博物館発行です。パラリとめくったそのページにはこのように書いてありました。“まず、あなたの調べようとしている虫は本当にテントウムシですか？” “テントウムシに似てテントウムシではないおもな仲間”

なんと！その中に私の目の前にいる虫とそっくりなのが載っていたのです。キボシマルウンカ・・・そうテントウムシに擬態したマルウンカだったのです。いやー、わかりやすい本って、ホントありがたいですね。ありがと、発行してくれた自然史博物館。ありがと、冊子を渡してくれた人。(藤田かおる)

## エンマムシ



スマホ顕微鏡で撮影したエンマムシの仲間 体長約5mm

草むらで低く飛ぶ蛾を捕まえようと網をかぶせた。残念ながら蛾は逃したが、枯葉や朽ち木のかげらに混じって5mmほどの黒っぽいコウチュウらしきものが網の中にいた。午後からの同定作業中にそれを顕微鏡で覗いて驚いた。琥珀色の前脚は平たく広がり引っ搔くのに便利そうだ。しかしまったく種が分からない。学芸員さんに尋ねるとエンマムシとの答えが返ってきた。「脚がモグラの手のように見えるでしょう。」言われてみればその通りだ。じっと見ていると閻魔大王の帽子と横についた飾りのようだ。体長5mmの閻魔様はミニマム世界の地獄で睨みを利かせているようだ。

コウチュウ目エンマムシ科。いったい何者だ。エンマムシは動物の死体や糞に集まるので、糞虫の仲間のように見えるが、多くはそこに発生するハエの幼虫(ウジ)の捕食者であるそうだ。エンマムシの名前の由来も動物の死体に集まることかららしいが、何より形状のユニークさに圧倒されて顕微鏡から目が離せなくなった。「モグラの手」をどのように使うのだろう。獲物をラッコのように持って食べるのだろうか。などと想像力は膨らむばかりだ。

鴻の峰周辺の観察は4年目に入ったが、毎年見かける昆虫ばかりでなく新しく種を同定できることも多い。一步踏み込んだ先はさらに視界の開けた世界じゃないか!いつも新しい発見がある。そんな気持ちでこの観察を続けている。(岡田美子)

## スミナガシ



スミナガシ 開張 50-65 mm 食草アワブキなど

博物館別館から外のコンクリートの外壁を見やると何となく黒い影が見えた。何かしら蝶のように見える。外に出て近寄って見るとやはり蝶が止まっていた。どうやら生きているようである。さらに近寄ってよくみると翅にジグザグ模様があり口吻も赤い。ギョエエエエ！！スミナガシだ！！！！こんなところに日本人！じゃなかったスミナガシ！！！！網を取りに部屋に戻ってみんなにスミナガシが居たと言いながら階段を駆け下りて外に出た。誰も全く信じていないようだ。蝶は先ほど見つけた外壁にまだ止まっている。そっと網に取り込んでもまだ信じてもらえていない。慌てていたため収容するときに翅を傷めてしまった。腐っても鯛、翅が傷んでもスミナガシである。

スミナガシの食草はアワブキ科のアワブキやヤマビワなどであるが、博物館周辺どころか近隣の山にも殆どみられない樹である。自分自身がスミナガシを見たのは十数年も前に寂地山でアワブキの葉に止まっていたのを写真に撮ったきりであった。どうしてこんなところかというのが正直な気持ちであり、今でもその壁を見るときついついスミナガシを探してしまう。(上田洋史)。

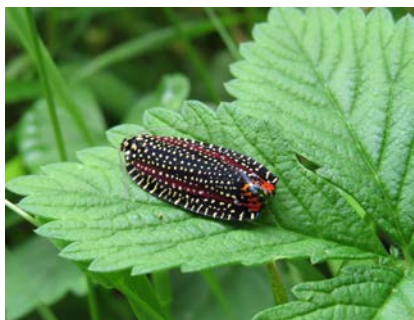
## 兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの夏の昆虫



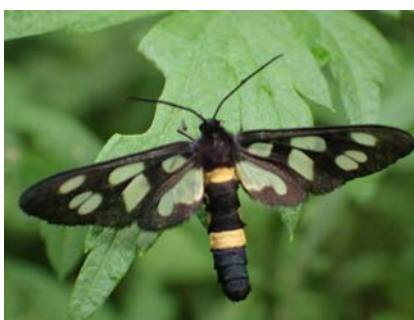
カブトムシ 体長 32-53 mm クヌギやコナラなどの樹液に集まる。交尾後メスは腐葉土に潜り産卵し、幼虫は腐葉土を食べ、翌年夏、成虫となる。



ラミーカミキリ 体長 10-15 mm カラムシなどの葉の裏で葉脈や葉柄を食べる。6月ごろ最も多い。人が近づくと飛んだり、下に落ちたりして見失う。



ビロードハマキ 開張 34-59 mm 6月の昼間 飛んだり、交尾している個体をみる。幼虫は広食性でカエデ類、カシ類などいろいろな葉を食べる。



カノコガ 開張 30-37 mm 昼行性のガの仲間 林縁部をひらひらと飛び、すぐに葉の上などに止まる。幼虫の食草はタンポポやスイバなど広食性。



セアカツノカメムシ 体長 14-19 mm 比較的大きなカメムシで、腹背側の赤色が目立つ。ツノカメムシ科の特徴である前胸背両側の張り出しは弱い。



ツクツクボウシ 全長 41-47 mm 夏の終りを告げるように、8月の後半に鳴き始める。全長が 41 mm 以上で、前翅の紋が 2 個あるのが特徴。

## 兄弟山林道や鴻ノ峰林道沿いの秋の昆虫



ウラギンヒョウモン 開張 55-70 mm  
初夏と秋に見ることができるが、個体数は少ない。食草はタチツボスミレなどのスミレ類で、適度な草原が必要。



アカエグリバ 開張 40-50 mm 秋見られる。全身が落ち葉に擬態した姿は、必見である。成虫で越冬するため、ビーティングにより晩秋でも発見できる。



アカスジキンカメムシの幼虫 体長 10-20 mm 秋、コブシなどの葉に群れているのが観察できる。光沢があり、白い模様が目立つ。



シマアメンボ 体長 5-7 mm 砂防園の緩やかな小川の流に多い。背中模様は採集し拡大するとわかる。成虫で越冬するため、晩秋でも観察できる。



カヤコオロギ 体長約 9 mm 9~11月、林縁のイネ科の植物の葉上にいるのが観察できる。じっとしているので見つけにくい、端正な姿をしている。



ハラビロカマキリ 体長 45-68 mm 林縁の樹木やつる植物などの葉の上によくいる。前翅に目立つ白色紋がある。遅くまで見ることができるカマキリ。

## サポちゃんのつぶやき

- ・たまに夜アオバズクが家の近くでホーホッ、ホーホッ鳴いている。巣があるのかなあ。暑い夜もなんだかニンマリ（トマト大好き）（- “” -）
- ・ワールドカップ観戦夜明けまで生テレビ。おかげで今年の夏は暑さと寝不足のダブルパンチ。いやダブルパンチでした。（40年前サッカー小僧）
- ・毎晩玄関灯に小指の爪より小さいアオガエルが3匹。灯に来る虫を狙ってるんだらうけど、お出迎えみたいでうれしい♡（けこけこ）
- ・朝から窓のすぐ傍で鳴くクマゼミ、向こうにはもっと大きな木があるよ。もうちょっと寝かせて、お願い(;▽;)（熱帯夜のある朝）
- ・夏日、真夏日、猛暑日、この先恐ろしい・・・（夏子(-\_-;)）
- ・7月の大雨でホテルは流されたかなと思いきや、数日後には3つの光。厳しい環境を生きる小さな命はやっぱりすごい。（かこにゃん）
- ・土用の丑の日、ウナギの高値にビックリ！西郷どんみたいに川でつかみ取り出来たらいいのになあ。（山椒は小粒）
- ・猛暑で虫も少なくなるかと思ったが、夜には一杯活動してますね。昼には見れない虫にも会いたいなあ。（ナイトトラップ ラブ!）
- ・ギラギラ照りつける太陽光の中、梢で光り輝くタマムシをみてみたい。（アナグマくん）
- ・ベランダや玄関に虫の死骸が…以前は捨てていたもの。今は集めて標本に。南無南無（H）



秋の観察会の様子



調査の様子



オオカマキリ 全長 68-95 mm 大人  
の手ぐらい大きさである。オスはメス  
より小さい。クズの葉の上や、花の近  
くで、昆虫など待ち伏せ捕らえる。

オオカマキリの卵しょう 草や木  
の茎や細い枝などでみつかると。春、  
数十～数百の小さなカマキリの幼  
虫がかえる。

秋の昆虫観察会に参加した子供たちが交尾中のオオカマキリを発見した。交尾中にメスはオスを食べることがあるといわれていたが、この時初めて観察できた。オスの頭と胸はなく、腹部は交尾状態であった。捕食性のカマキリは動くものに反応し、捕らえて食べる。捕食者としての凄さを感じた。

#### 主な参考文献

日本の昆虫 1400①・② (2013) 梶真史他著 伊丹市昆虫館監修 (文一総合出版)  
イモムシハンドブック①～③ (2014) 安田守著 (文一総合出版)  
公園で探せる昆虫図鑑 (2011) 石井誠著 (誠文堂新光社)  
大阪のテントウムシ (1999) 初宿成彦著 (大阪市立自然史博物館)

### 表紙あとがき

最近、命の重さを感じる事が度々ありました。運命だと思いながら、少しでも永らえないかと悪あがきをしてしまいます。生きているのはそれなりにやる事があるからだと言われますが、この猛暑!![私の命はきつと浴びるほどビールを飲むためにあるのだ(o^~o) (原まゆみ)

山口博物館サポーター動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 3

発行 2018年8月9日

編集 山口県立山口博物館サポーター動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353